

(品目別需給編)

(3) 国別の小麦の需給動向

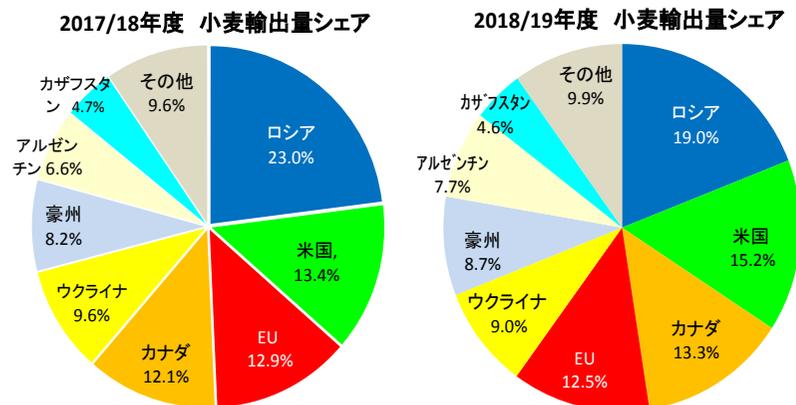
< 米国 >

【生育・生産状況】8月20日時点で、冬小麦は、収穫進捗率が97%となった。また、前年度より作付けが遅れた春小麦も収穫が進み、収穫進捗率は60%と過去5年平均(44%)を上回っている。

生産量は、7月予測より収穫面積、単収ともわずかに下方修正され51.1百万トンと減少したものの、2017/18年度より7.8%増加する見込み。種類別には、冬小麦が6.1%減、春小麦が47.5%増、デュラム小麦が33.7%増。

【需要状況】消費量は前月より下方修正され31.4百万トンの見込み。用途別では、食品向けの消費支出が伸びていることから食用が前月より上方修正され史上最高の26.4百万トンとなった。一方、飼料用はとうもろこしが相対的に廉価であることから下方修正され3.3百万トン。

【貿易情報・その他】EU等の生産の減少による輸出競合国の輸出余力の低下により輸出量は前月より1.4百万トン上方修正され27.9百万トンとなる見込み。この結果世界に占める米国産小麦の輸出量シェアは15.2%（2017/18年度は13.4%）となる見込み。



資料：米国農務省「PS&D」（2018.8.12）をもとに農林水産省で作成。

小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

(単位:百万トン)

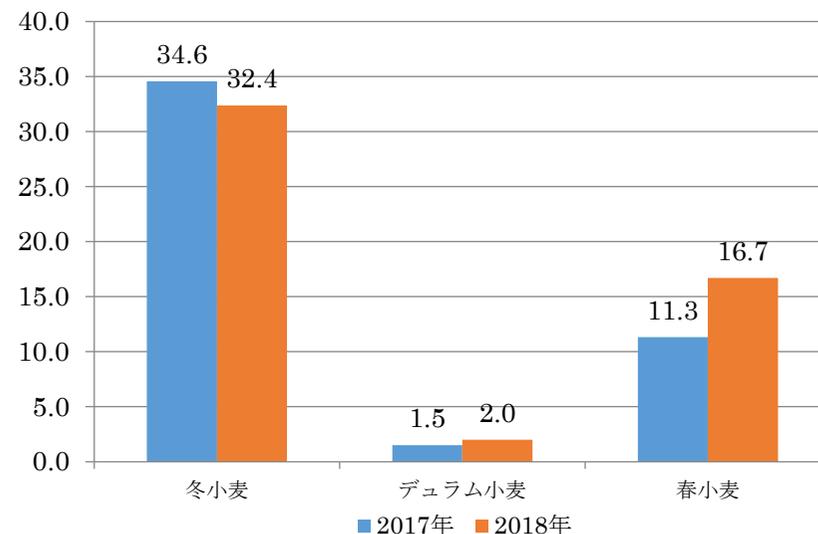
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.1	▲ 0.1	7.8
消費量	31.9	29.3	31.4	▲ 0.1	6.9
うち飼料用	4.4	1.3	3.3	▲ 0.3	147.7
輸出量	28.6	24.5	27.9	1.4	13.8
輸入量	3.2	4.3	3.7	-	▲ 14.3
期末在庫量	32.1	30.0	25.5	▲ 1.4	▲ 15.0
期末在庫率	53.1%	55.6%	43.0%	▲ 3.2	▲ 12.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	17.75	15.21	16.01	-	5.3
単収(t/ha)	3.54	3.11	3.19	▲ 0.01	2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 August 2018)

(百万トン) 冬・春・デュラム小麦別の生産量 (2017/18、2018/19年度)



資料：米国農務省「Crop Production」(2018.8.12)をもとに農林水産省で作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】平原3州（アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州）では乾燥型の天候となり、春小麦の登熟が進展。東部の州では収穫が行われている。

カナダ各州の報告によれば、生育状況等は以下の通り。

アルバータ州では、降雨不足により春小麦の作柄は悪化しており、8月24日時点の作柄は「良」から「やや良」が59.6%と前週（60.9%）より悪化した。

サスカチュワン州では、乾燥型の天候により南部で収穫が進展した。北部では8月下旬から収穫が開始される見込み。

マニトバ州では、高温乾燥型の天候により春小麦の生育が進展したものの、単収は降雨量の影響で地域によって差異がある。現在、収穫が進展。

カナダ農務農産食品省（AAFC）8月報告によれば、2018/19年度の小麦全体（デュラム小麦とそれ以外の小麦）の生産量は、前月より単収の低下からデュラム小麦が5.8百万トン（前月6.1百万トン）に下方修正されたことから、1.0%減の30.3百万トンの見込み。なお、2017/18年度対比では、デュラム小麦を除く小麦が2.1%減、デュラム小麦が6.9%増の見込み。

< 豪州 >

【生育・生産状況】最大産地のウエスタンオーストラリア州では、降雨により単収は良好の見通し。現在、生育は出穂期を迎えている。一方、ニューサウスウェールズ州とクイーンズランド州南部では再び乾燥型の天候となるなど、干ばつが続いており、単収が悪化。また、サウスオーストラリア州、ヴィクトリア州南部では降雨が少なく、今後、追加の降雨が必要な状態である。

米国農務省(USDA)によれば、生産量は最近の降雨の状況から、豪州全体としては前月からの改訂はなく、22.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は、輸出価格が上昇しているものの、前月からの改訂はなく、16.0百万トンの見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	32.5 (30.3)	-	8.3
消費量	10.8	9.3	9.4 (8.7)	0.3	1.1
うち飼料用	5.8	4.4	4.4 (4.2)	0.4	-
輸 出 量	20.2	22.1	24.5 (22.3)	-	10.9
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	▲ 0.1	-
期末在庫量	6.9	6.0	5.0 (5.5)	-	▲ 15.9
期末在庫率	22.4%	19.0%	14.8% (17.7%)	▲ 0.1	▲ 4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.00	9.70 (9.81)	-	7.8
単収(t/ha)	3.58	3.33	3.35 (3.09)	-	0.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2018)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 August 2018)

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	22.0 (22.5)	-	3.3
消費量	7.5	7.3	8.1 (6.9)	-	11.3
うち飼料用	4.0	3.8	4.6 (3.5)	-	21.1
輸 出 量	22.6	15.0	16.0 (16.5)	-	6.7
輸 入 量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	5.7	4.9	3.0 (4.2)	-	▲ 39.8
期末在庫率	19.0%	22.0%	12.2% (17.9%)	-	▲ 9.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	12.00 (11.96)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.83 (1.88)	-	5.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2018)、
IGC 「Grain Market Report」(26 July 2018)

< EU >

【生育・生産状況】7月も北部ヨーロッパ（英国、オランダ、ドイツ、ポーランド、バルト三国、スウェーデン等）では乾燥と平年を上回る気温が続いた。

米国農務省(USDA)によれば、この天候で単収と収穫面積が減少したことから、2018/19年度の生産量は、前月より7.5百万トン下方修正され137.5百万トン（対前年度14.2百万トン減）となる見込み。

主要国では、高温乾燥天候によりドイツで3.00百万トン、ポーランドで0.53百万トン、高温乾燥とその後の降雨過多等からフランスで1.75百万トン、生産量が前月より下方修正された。一方、スペインでは降雨に恵まれ1.1百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は、生産量の減少から前月より4.5百万トン下方修正され、2012/13年度以来最低の23.0百万トンとなる見込み。

軟質小麦の輸出先はアルジェリア、サウジアラビア、エジプト等のアフリカ、中東諸国、デュラム小麦は、チュニジア、コートジボワール、マリ等のアフリカ諸国となっている。

< 中国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、冬小麦の収穫は6月に概ね終了した。中国統計局の7月レポートによれば、2018/19年度の小麦生産量は前年度比2.4%減の128.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、食の西洋化を背景にパン用等の高タンパク小麦の需要が増加しているため、輸入量が前年度に比べ0.5百万トン増加する見通しは変わらず。小麦の生産減に伴い、中国政府は、8月下旬に小麦の国家備蓄在庫について一部、市場への放出を決定した。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.7	137.5 (142.3)	▲ 7.5	▲ 9.3
消費量	128.0	130.4	124.0 (129.1)	▲ 3.0	▲ 4.9
うち飼料用	56.0	58.0	52.0 (55.8)	▲ 2.5	▲ 10.3
輸出量	27.4	23.5	23.0 (26.7)	▲ 4.5	▲ 2.1
輸入量	5.3	5.6	5.5 (6.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	10.7	14.1	10.1 (13.2)	▲ 0.3	▲ 28.3
期末在庫率	6.9%	9.2%	6.9% (8.5%)	0.2	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.32	25.63 (25.66)	▲ 0.01	▲ 2.6
単収(t/ha)	5.34	5.76	5.36 (5.5)	▲ 0.29	▲ 6.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」 (12 August 2018)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」 (26 July 2018)

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.9	129.8	128.0 (122.5)	-	▲ 1.4
消費量	118.5	117.0	122.0 (119.4)	-	4.3
うち飼料用	16.5	13.5	17.0 (14.0)	-	25.9
輸出量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	20.0
輸入量	4.4	4.0	4.5 (4.1)	-	12.5
期末在庫量	111.1	126.8	136.1 (116.0)	-	7.3
期末在庫率	93.1%	107.5%	110.5% (96.3%)	-	3.0

(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.19	23.99	23.70 (23.83)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.33	5.41	5.40 (5.14)	-	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 August 2018)
IGC 「Grain Market Report」 (26 July 2018)

< ロシア >

【生育・生産状況】8月に入り、欧州地域を中心に収穫が前年度を上回るペースで進展し、中盤から終盤を迎えている。

冬小麦の生産量は、高温・乾燥により48.5百万トンに減少（対前年度12.5百万トン減）で、前月からの改訂はない。

一方、春小麦は、播種作業が終了。生育状況は、シベリア地方での適時の降雨や暖かな気温に恵まれるなど順調である。生産量は、単収が改善する見通しから、前月より1.0百万トン上方修正され、19.5百万トン（対前年度4.5百万トン減）の見込み。

小麦全体の生産量は、1.0百万トン上方修正され、68.0百万トン（対前年度17.0百万トン減）の見込み。

【貿易情報・その他】2018/19年度、生産量は減少するものの、潤沢な期首在庫から、引き続き、世界第1位の輸出国となる見込み。

ロシア政府は8月20日、小麦を含む穀物生産量見通しを100百万トンから100.5百万トンに上方修正し、国内の需要を満たし、輸出についてもかなりの輸出が可能と公表した。このため、輸出規制の可能性は低くなったと見られるが、ロシアの輸出動向については引き続き注視が必要。

小麦ーロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	68.0	(66.0)	1.0	▲ 20.0
消費量	40.0	45.0	38.0	(41.3)	▲ 1.0	▲ 15.6
うち飼料用	17.0	21.5	16.0	(17.5)	▲ 1.0	▲ 25.6
輸 出 量	27.8	42.0	35.0	(30.3)	1.0	▲ 16.7
輸 入 量	0.5	0.4	0.6	(0.3)	-	50.0
期末在庫量	10.8	9.2	4.8	(11.4)	-	▲ 47.7
期末在庫率	16.0%	10.6%	6.6%	(16.0%)	-	▲ 4.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	25.50	(26.10)	-	▲ 6.7
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.67	(2.53)	0.04	▲ 14.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2018)、
IGC 「Grain Market Report」(26 July 2018)

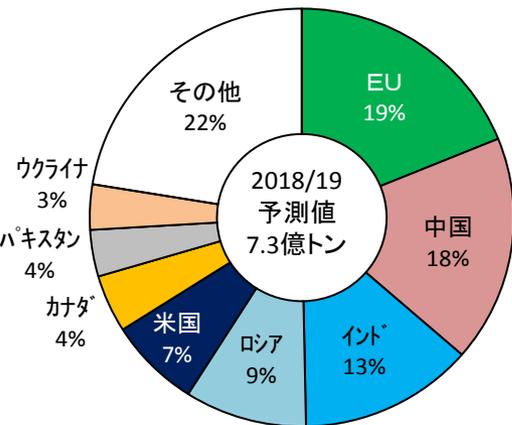
ロシア産小麦（全体、春小麦、冬小麦）の生産量、単収、収穫面積の推移（2016/17～2018/19年度）



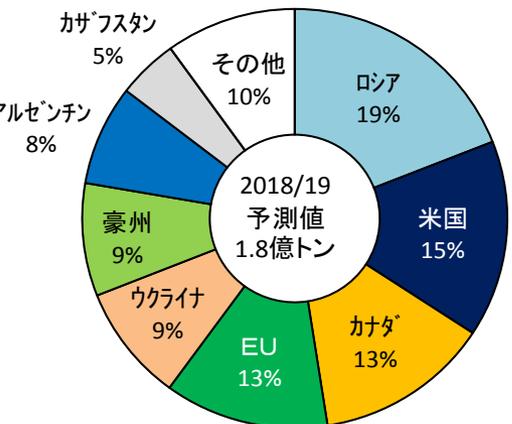
資料：米国農務「World Agricultural Production」(August 2018)をもとに農林水産省で作成。

資料 世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年8月現在)

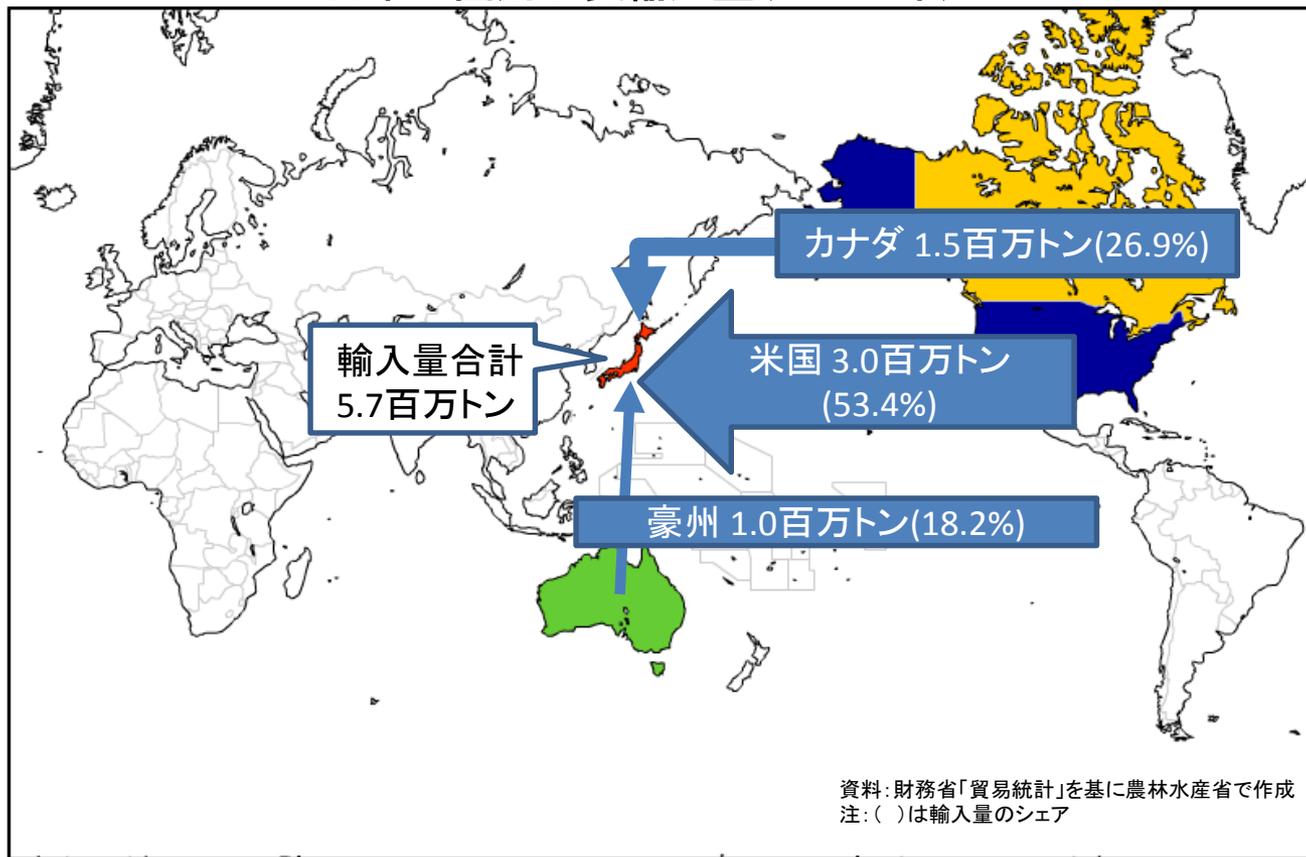
世界の小麦生産量



世界の小麦輸出量

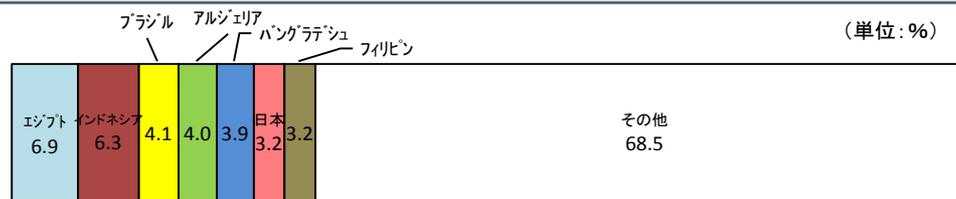


日本の国別小麦輸入量(2017年)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省で作成
注:()は輸入量のシェア

<参考>世界の小麦輸入国 (2018/19) —世界の輸入量の3割を上位7カ国が占める—



日本の小麦生産量
 2015年:1.00百万トン
 2016年:0.79百万トン
 2017年:0.91百万トン
 (資料:農林水産統計)

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国での単収の増加により上方修正された。

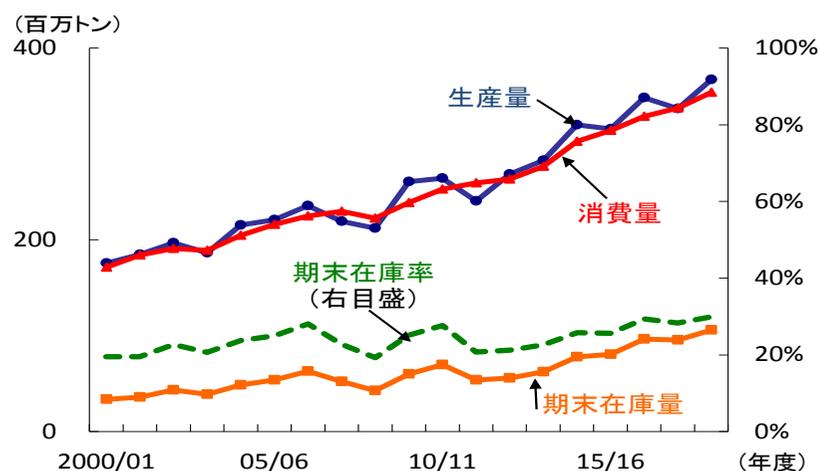
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国、ブラジルの飼料需要の増加により上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国での生産増加による輸出余力の増加により上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

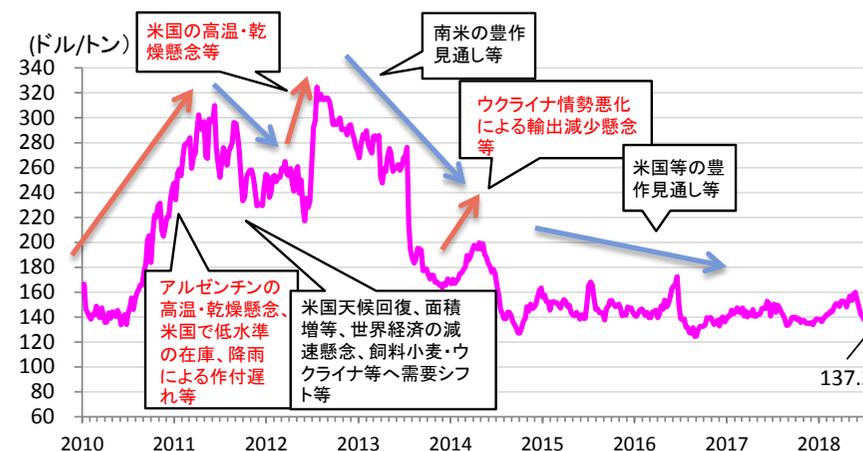


資料：USDA「PS&D」(2018. 8. 20)をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.6	1,033.3	1,061.1	6.8	1.9
消費量	1,060.8	1,067.8	1,098.9	4.8	2.1
うち飼料用	633.2	650.7	671.4	4.7	2.6
輸出量	160.0	147.5	159.6	1.8	4.6
期末在庫量	227.8	193.3	155.5	3.5	▲ 18.3
期末在庫率	21.5%	18.1%	14.1%	0.3	▲ 4.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 August 2018)



注：シカゴ商品取引所による2018年8月24日までの毎週金曜日の期近価格である。

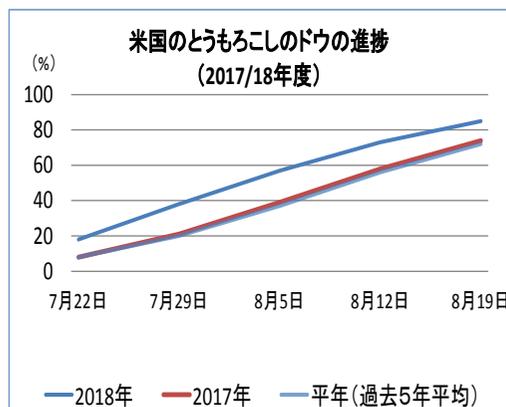
(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

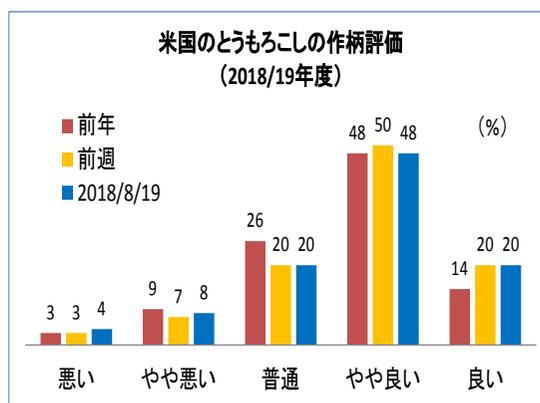
【生育・生産状況】米国農務省（USDA）による8月の現地調査により、単収予測が上方修正されたことから、前月より生産量は3%上方修正され、370.5百万トンの見込み。単収は増加し、史上最高の見込みである。8月20日時点で、主要産地の85%は、糊熟期（ドウ・ステージ：受粉後、穀物の粒が、ミルク状から徐々に柔らかい固まりになってゆく過程）を迎えており、例年（72%）を上回っている。生育状況（良い、やや良いを足したもの）についても、前年度よりも良好である。

【需要状況】家畜頭数の増加のため飼料用需要が前月より上方修正され、消費量は上方修正された。米国のとうもろこしは、低価格で競争力があり、畜産需要が高くなっている。

【貿易情報・その他】輸出量は、5月以降堅調で、米国農務省（USDA）予測では、ブラジル等他の輸出国の輸出競争力の低下により、前月より上方修正され、59.7百万トンの見込み。



資料：USDA Crop progress 2018.08.20



とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	370.5	9.1	▲ 0.1
消費量	313.8	317.8	320.8	2.5	1.0
うち飼料用	139.0	138.4	140.3	2.5	1.4
エタノール用等	138.0	142.2	142.9	-	0.4
輸 出 量	58.3	61.0	59.7	3.2	▲ 2.1
輸 入 量	1.5	1.0	1.3	-	24.5
期末在庫量	58.3	51.5	42.8	3.3	▲ 17.0
期末在庫率	15.7%	13.6%	11.2%	0.7	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.20	0.28	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	33.0	41.0 (48.3)	-	24.2
消費量	11.2	10.8	12.0 (20.1)	-	11.1
うち飼料用	7.5	7.0	8.0 (15.5)	-	14.3
輸 出 量	26.0	24.0	27.0 (29.0)	-	12.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	3.5	5.5 (5.8)	-	57.3
期末在庫率	14.2%	10.0%	14.1% (10.0%)	-	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.10	5.00 (6.45)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	8.37	6.47	8.20 (7.49)	-	26.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)
IGC「Grain Market Report」(26 July 2018)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社（CONAB）によると、2017/18年度の作付面積は前年度と比較して5.4%減少し、生産量も減少の見込み。特に7月に収穫が終了した冬とうもろこしは、乾燥天候により、生産量が前年度と比較して17.8%減少しており、地域的には、主産地である南部の減少率が高い。

2018/19年度については、8月から一部地域で夏とうもろこしの作付けが始まっている。

【需要状況】CONABによると、主に鶏・豚用向け飼料を中心に伸びている。

【貿易情報・その他】2017/18年度の冬とうもろこしが生産量が減少していることから、需給がタイトとなり、輸出量は減少している。一方、輸入については、飼料不足となった一部地域において、隣国パラグアイからの輸入を行っている。

とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	83.0	94.5 (93.8)	▲ 1.5	13.9
消費量	60.5	64.0	66.5 (65.0)	1.0	3.9
うち飼料用	51.0	54.5	56.0 (52.0)	1.0	2.8
輸出量	31.6	23.0	29.0 (31.0)	▲ 2.0	26.1
輸入量	0.9	0.5	0.7 (0.5)	-	40.0
期末在庫量	14.0	10.5	10.2 (5.5)	1.0	▲ 2.9
期末在庫率	15.2%	12.1%	10.7% (5.7%)	0.6	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.80	17.50 (17.00)	▲ 0.20	4.2
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.52)	▲ 0.02	9.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 August 2018)
IGC 「Grain Market Report」 (26 July 2018)

< 中国 >

【生育・生産状況】天候に恵まれ、主産地における生育状況は、平年より良好であり、シルキング（種実部の先端からめしべとなる細く長い毛を出すことで、受粉の準備をすること）が順調に進んでいる。

【需要状況】国家備蓄とうもろこしの競売が続いていることから、国内価格は下落し、その傾向が続いている。

【貿易情報・その他】中国税関が8月23日に公表したデータによると、7月の穀物輸入量は、大幅に減少しており、とうもろこしは前年同期63.7%減の33万トンとなった。

とうもろこし—中国

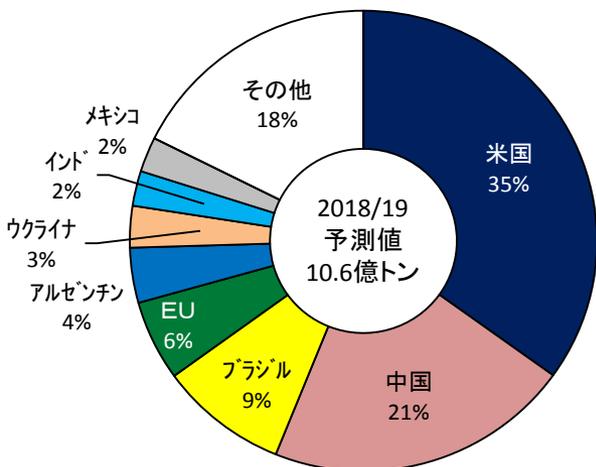
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	219.6	215.9	225.0 (220.8)	-	4.2
消費量	232.0	241.0	251.0 (246.2)	-	4.1
うち飼料用	162.0	167.0	174.0 (152.0)	-	4.2
輸出量	0.1	0.1	0.1 (0.2)	-	-
輸入量	2.5	4.0	5.0 (3.0)	-	25.0
期末在庫量	100.7	79.6	58.5 (166.1)	-	▲ 26.5
期末在庫率	43.4%	33.0%	23.3% (67.4%)	0.0	▲ 9.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.77	35.47	36.50 (35.70)	-	2.9
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.16 (6.19)	-	1.1

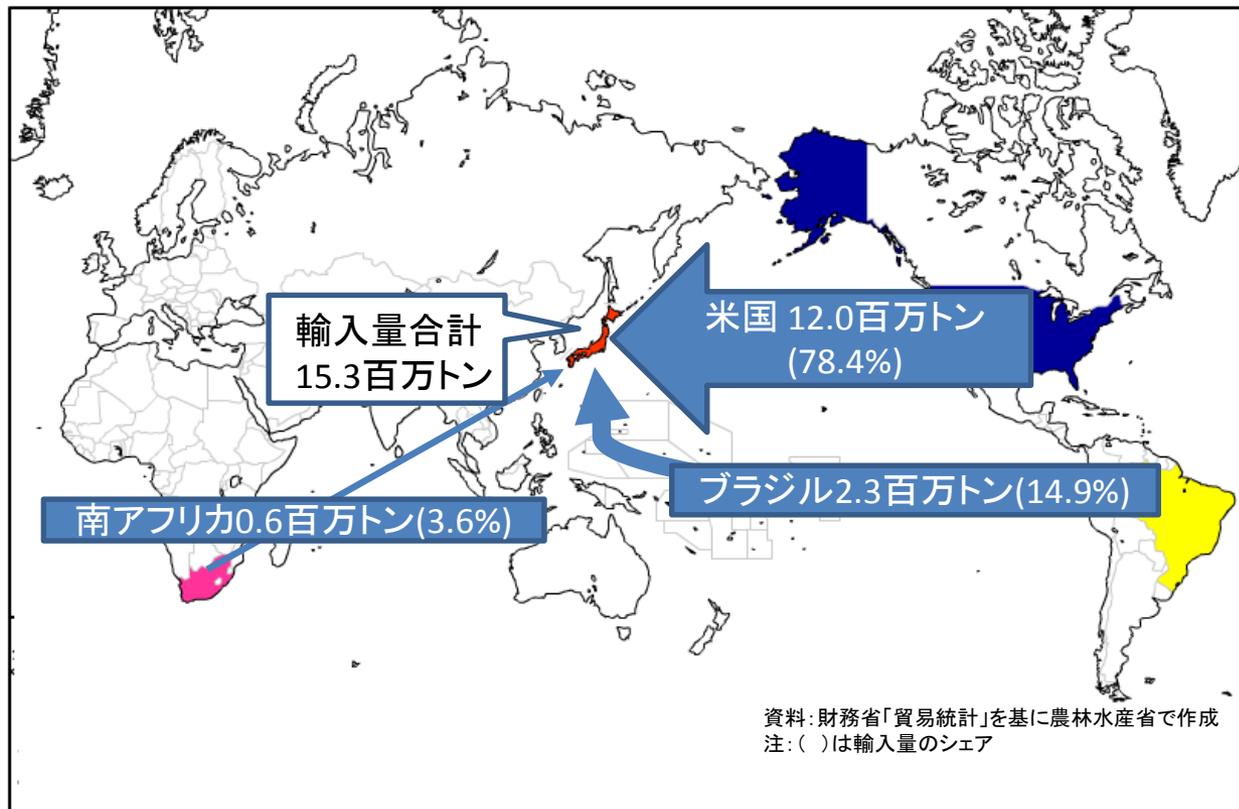
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 August 2018)
IGC 「Grain Market Report」 (26 July 2018)

資料 世界のとうもろこし生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年8月現在)

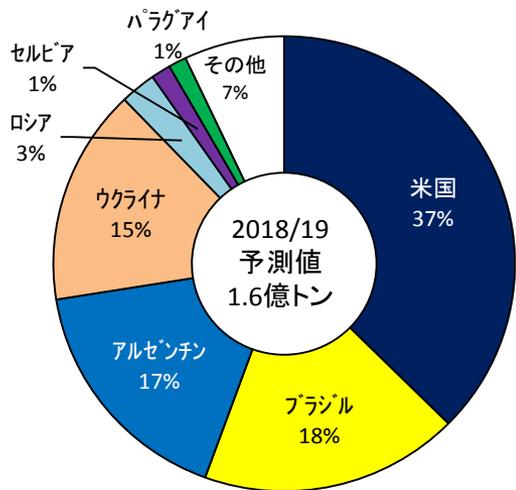
世界のとうもろこし生産量



日本の国別とうもろこし輸入量(2017年)

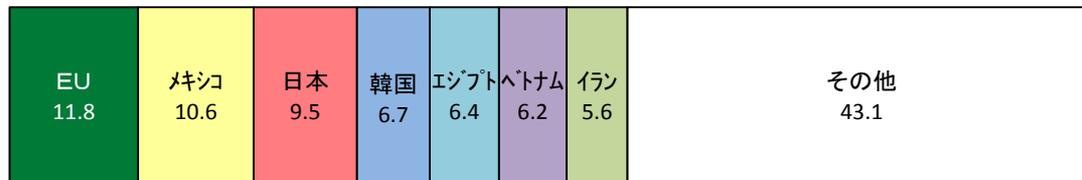


世界のとうもろこし輸出量



＜参考＞世界のとうもろこし輸入国 (2018/19)
—日本は世界第3位のとうもろこし輸入国—

(単位:%)



3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、米国の単収の下方修正等により下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

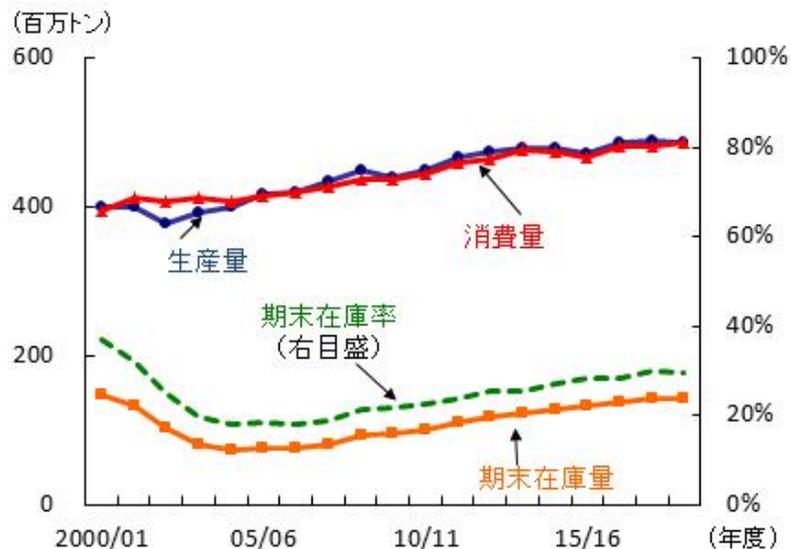
輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	486.7	488.5	487.6	▲ 0.2	▲ 0.2
消費量	482.8	481.5	487.8	▲ 0.1	1.3
輸出量	47.2	48.3	49.3	0.0	2.1
輸入量	41.3	48.1	46.7	0.2	▲ 2.9
期末在庫量	136.8	143.8	143.6	▲ 0.2	▲ 0.2
期末在庫率	28.3%	29.9%	29.4%	▲ 0.0	▲ 0.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)



資料: USDA 「PS&D」(2018.8.10)をもとに農林水産省にて作成



注:タイ国家貿易取引委員会公表による2018年8月22日までの毎週水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培
カリフォルニア州の全米に占める生産シェアは約2割

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）によれば、8月19日時点で、長粒種は収穫が開始され、主産地のルイジアナ州では進捗率は67%と前年度(68%)並。

一方、中・短粒種の主産地のカリフォルニア州では出穂率が80%で前年度(84%)より遅れている。9月以降、収穫期を迎えると見られる。

生育状況は作柄調査の「やや良」と「良」の合計がルイジアナで73%、カリフォルニアで95%と良好である。

先月と比べ、現地調査結果の反映による単収の下方修正により、生産量は下方修正された。しかしながら生産量が前年度より増加する見込みは変わらず。

【需要状況】2017/18年度のペットフードやビール向け需要の伸びを反映し、2018/19年度の消費量が上方修正されて、前年度比0.7%増となった。

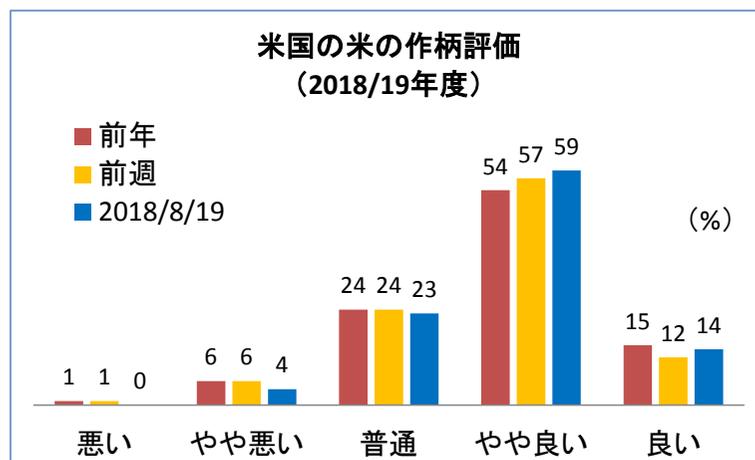
【貿易情報・その他】 輸出量は、前月と比べ、単収の下方修正による生産量の下方修正から下方修正された。精米価格はミシシッピ川流域の長粒種(2等4%碎米混入、ガルフ積み)が7月から20ドルトン下落し、600ドルトン。一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%碎米混入 精米工場渡し)は948ドルトンで4月から変わらず。

米－米国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	6.7	▲ 0.1	18.4
消費量	4.2	4.1	4.2	0.1	0.7
輸 出 量	3.7	2.8	3.1	▲ 0.1	13.1
輸 入 量	0.8	0.9	0.9	-	-
期末在庫量	1.5	1.1	1.4	0.05	26.4
期末在庫率	18.5%	16.0%	19.1%	0.8	3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.13	-	17.7
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.43	▲ 0.09	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)



資料：USDA「Crop Progress」(2018.8.20)をもとに農林水産省で作成。

< タイ > **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】タイの米生産は、主に夏期に栽培される雨季作と、冬期に栽培される乾季作に分かれている。

タイ政府の7月予測によれば、作付面積が前年度並みの9.44百万ヘクタール。懸念された天候については、降雨に恵まれ、生育状況が良好なことから単収が増加し、前年度と比較して8.4%増の26.1百万トン(粳ベース)の見込み。タイ中部では、8月末には収穫が開始される見通し。

【需要状況】USDAによれば、消費量は、前年度より減少の見込みは変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、8月に入り、中国やフィリピン向け新規輸出需要の発生の影響で、普通米のFOB価格は上昇に転じた。一方、香り米のFOB価格は2ヶ月連続で下落している。

< 中国 > **北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度**

【生育・生産動向】生育状況は、8月初旬では、一期作稲は、東北地区は出穂期、長江中下流域、西南地区は穂ばらみ期から出穂期となっている。一期作稲の単収は、直近5年の平均値並またはやや増加する見通し。

二期作早稲については、江南、華南地域では乳熟、登熟段階、江南北部等で収穫済み、国家統計局の8月24日付けレポートでは、2018年産の二期作早稲生産量は、前年度より天候に恵まれ単収が増加も、作付面積の減少により、前年度(2,987万トン)より4.3%減少し、2,859万トン(粳ベース)の見込み。

二期作晩稲については江南地域で分けつ期を迎えている。二期作晩稲の単収は、直近5年の平均値並またはやや増加する見通し。

【貿易情報・その他】国内価格は、新穀の二期作早稲が市場に出荷される見込みで下落している。農業農村部「農産品供需形勢分析月報 7月号」によれば、7月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3.78元/kg、4.08元/kg、4.22元/kgで、すべて前月より下落している。

米-タイ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	19.2	20.4	21.2 (21.3)	-	4.1	
消費量	12.0	11.2	10.2 (10.8)	-	▲ 8.7	
輸 出 量	11.6	10.5	11.0 (10.8)	-	4.8	
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.2	3.2	3.4 (3.7)	-	7.8	
期末在庫率	18.0%	14.7%	16.2% (17.1%)	-	1.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.14 (11.20)	-	4.3	
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88 (1.90)	-	▲ 0.3	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)
IGC「Grain Market Report (26 July 2018)」(単収は精米t/ha)

米-中国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	145.0	146.0	142.2 (141.8)	-	▲ 2.6	
消費量	141.5	142.7	144.0 (146.1)	-	0.9	
輸 出 量	0.8	1.3	1.7 (1.8)	-	30.8	
輸 入 量	5.3	5.5	5.5 (5.0)	-	0.0	
期末在庫量	86.5	94.0	96.0 (72.9)	-	2.1	
期末在庫率	60.8%	65.3%	65.9% (49.3%)	-	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	30.18	30.18	29.50 (29.45)	-	▲ 2.3	
単収(もみt/ha)	6.86	6.91	6.89 (4.81)	-	▲ 0.3	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)
IGC「Grain Market Report (26 July 2018)」(単収は精米t/ha)

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

米ーインド

(単位:百万精米トン)

【生育・生産動向】カリフ米について、8月上旬時点で北西、北東インドで分けつ期、東部、南東部インドでは移植期を迎えている。北部のウツタルプラデシュ州など6～7月の降雨不足で生育が遅れている地域もあるが、概ね例年とおりの生育状況。

【需要状況】前年度と比べ消費量が増加する見込みは先月と変わらず。

【貿易情報・その他】前年度と比べ、輸出量が減少する見込みは前月と変わらず。世界の輸出国であり、6月の通関統計によれば、イランの水不足により、同国向けの輸出が増加している。

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	109.7	110.0	109.0 (113.0)	-	▲ 0.9
消費量	95.8	97.4	98.0 (100.5)	-	0.7
輸出量	11.8	12.8	12.5 (12.4)	-	▲ 2.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	20.4	18.9 (18.6)	-	▲ 7.4
期末在庫率	19.1%	18.5%	17.1% (16.5%)	-	▲ 1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.92	43.50 (44.00)	-	▲ 1.0
単収(もみt/ha)	3.74	3.76	3.76 (2.57)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)
IGC 「Grain Market Report (26 July 2018)」 (単収は精米t/ha)

< ベトナム > **北部で二期作、南部で二期作、三期作。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】2017/18年度の冬春作は7月末時点で概ね収穫終了。総生産量は、20.5百万トン(粳ベース)で昨年より1.1百万トンの増加(5.7%増)となる見通し。

2017/18年度の夏秋作の作付面積は、前年度より2.3%減の2.04百万ヘクタールと減少。南部では収穫期を迎えている。北部では、冬春作の収穫の遅れから、作付けは例年より遅れているが、生育状況は良好である。北部、南部とも作付面積は減少しているが、単収の増加により生産量は増加する見込み。

【需要状況】USDAによれば、消費量が前年度より増加する見込みは前月と変わらず。

【貿易情報・その他】輸出については、1～7月計では388万トンで前年同期比24.6%増加となった。しかいながら、7月は38万トンと前年同月と比較し、30%以上減少した。7月から中国が輸入もち米への課税率を50%引き上げたことが要因。

価格については、新規需要に乏しい中、8月の国内卸売価格、7月の輸出価格(例: 精米: 5%碎米混入: 6月520ドル/トン→7月517ドル/トン)とも下落している。

米ーベトナム

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	27.4	28.9	29.1 (28.6)	-	0.4
消費量	22.0	22.1	22.4 (22.7)	-	1.4
輸出量	6.5	7.0	7.0 (6.7)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.3 (1.6)	-	5.8
期末在庫率	3.4%	4.2%	4.4% (5.4%)	-	0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.76	7.76 (7.80)	-	-
単収(もみt/ha)	5.68	5.97	5.99 (3.67)	-	0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 August 2018)
IGC 「Grain Market Report (26 July 2018)」 (単収は精米t/ha)

(参考) EUの米(従来から南欧でジャポニカ米(中・短粒種)を生産。EU全体の米の生産量の7割以上を占める)

<需給>(表参照)

- ・生産量は約180万トン。イタリア、スペイン等南部で盛ん。生産量の7割以上がジャポニカ米で、最近、ジャポニカ比率が増加。
- ・域内需要は約270万トン。主にリゾットやパエリア用等。すし向けジャポニカ需要もあり。
- ・輸入は年間約130万トン。多くはインド、カンボジア、タイ等から英国やドイツ等へ輸出されるインディカ米。ジャポニカ米については、我が国からの輸入も含め10万トン程度輸入。
- ・輸出は最近増加傾向。主にジャポニカ米。21万トン(2013/14年度)から32万トン(2017/18年度)へ増加。トルコ等近隣諸国向け。

<価格>(図参照)

- ・EUの精米については、イタリア、スペイン産が最近1年間では500~600ユーロ/トン(工場渡し価格)となっている。
- ・スペイン産で見ると、ジャポニカの方がインディカより高い傾向。
(スペイン産インディカ(7月 503ユーロ/トン)、ジャポニカ(7月 554ユーロ/トン))

表: EUの需給表(ジャポニカ・インディカ別)

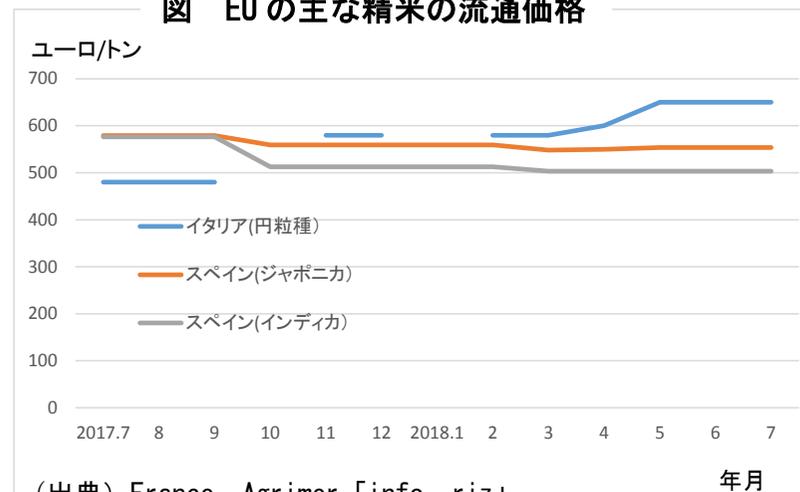
(単位: 精米千トン)

	2015/16			2016/17			2017/18		
	ジャポニカ	インディカ	計	ジャポニカ	インディカ	計	ジャポニカ	インディカ	計
期末在庫	157	283	441	270	272	542	378	265	643
生産量	1,322	449	1,772	1,410	424	1,834	1,274	459	1,733
消費量	1,131	1,665	2,795	1,179	1,532	2,711	1,155	1,518	2,673
輸出量	204	30	235	238	33	271	280	40	320
輸入量	125	1,235	1,360	116	1,134	1,250	100	1,120	1,220
期末在庫	270	272	542	379	265	643	317	286	603

(出典) 欧州委員会 「EU rice SUPPLY & DEMAND」

※EU内の生産国は、イタリア、スペイン、ギリシャ、ポルトガル、フランス、ブルガリア、ルーマニア、ハンガリーの8か国

図 EUの主な精米の流通価格



(出典) France Agrimer 「info riz」